夕刊
磐城時報
廿九日發行
福島縣平市紺屋町十四 編輯兼發行 印刷人 岡田弘成
福島縣平市紺屋町十四 印刷所 磐城時報社
福島縣平市紺屋町十四 發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金廿錢
廣告料一行十四字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

大陸燒けを土産に 慰問團元氣で歸る
慰問公演三十三回に及ぶ

縣代表として四十餘日に亘り滿洲方面郷土出身將兵の慰問旅行を無事に果した

闘長花柳登代藏吉野家金太郎金榮〆子、品澤ゑくぼ、開花歌丸、林家濱藷、杵屋十茂代の新田町紅裙連一行七名は二十八日午後二時五十分平驛着列車で歸平、驛前で青沼市長の慰勞の辭をうけ縣社に奉告旅裝を解いたが、二十九日は午後一時から市公會堂で歡迎公演會に臨んだ、花柳團長は次の通り感想を語つた

豫備知識はあつたが想像以上に喜ばれた、郡山市出身柏部隊副官相樂中佐、石城郡豐間町出身政井中尉始め郷土の兵隊さんに逢つたときは本當にうれしさがこみ上げた、慰問は三十三回やつたが、或時などは寢たのが午前三時で、翌朝六時に出發といふ强行軍もあつただが一行中一人も落伍者が無かつた。部隊長自ら驛まで送つて呉れるといふ感激振りでもあつた、前線の兵隊さんは農家出が多い關係からか田植のことを心配し、また內地は非常に景氣がよいといふことだが、輕佻浮薄に流れてゐるやうのことがないかとこうゆう点を氣遣つてゐる。

米の大闇取引 關係者一同送局

石城郡小名濱町字本別日本水素會社工員鈴木金藏(四九)は去る一月から二回に亘り自分の持米七十一俵を一俵五十錢高で日本水素會社に賣つて三十五圓五十錢の不當利を得た外石城郡玉川村大字大原農渡邊一二男に五十俵を一俵六十錢高に賣り、小名濱町字定西飯塚四郎(三五)は玉三村大字大原米仲買業海老根文瀰(四二)に九十俵を五十錢高に賣り海老根はその米を六十錢高で小名濱町古港御代定吉(六三)に、御代は玉川村山野邊義輝(四五)へ、山野邊は渡邊村中釜戸若松一也(五〇)に三十錢高で賣り、又玉川村關小名丹野鶴次郎(六九)は百六十俵を五十錢高で小名濱町御代定吉に賣つた事が發覺、平署で關係者一同を取調べ中であつたが平市仲間町米穀商佐藤幸太郎(四三)長橋町關內信次郎(四六)の兩名は相馬郡磨島町米穀商門馬二郎(五〇)鈴木喜平(三二)北林市郎(四〇)の四名から一車百六十俵を三百圓高で八車を買ひ、更に之を磐城炭礦その他に賣り數千圓の不當利得をおさめた闇取引は二十九日平檢事局に送つた

氷の公價決定

縣經濟保安課では盛夏季を接したので縣下各地の氷小賣價格を左の如く決定したが、郡內關係は一貫匁當り平市十五錢、小名濱十二錢、四倉、久之濱十四錢

前線へ慰問文

平市內の各中等學校及び各小學校では事變三周年記念日の七月七日を期し第一線將兵に慰問文を發送することになり目下全生徒から募集してゐる

石炭需給調査委員

此の程新設された縣石炭需給調整協議會は二十七日役員を任命されたが、地方關係者は左の如くである

▲委員 縣議遊沼龍輔、磐炭一ノ瀨亮一郎、入山大貫經次、古河下野十朗、大日本炭戸部光衛、日曹鳥居大惠、平市阿部政右エ門

平均七十圓高豫想
川前の二才駒糶近づく

石城產馬の最終駒糶、川前村桶賣市場は來月九日から二日間行はれるが、出駒數は二百廿頭の見込みで、昨年の百六十八頭より五十二頭多く、相場は既に行はれた上遠野及び中寺市場に於ける高値から推し一頭平均昨年に比し尠くとも七、八十圓高と豫想されてゐる

防空關係打合せ會

第二次防空訓練は來る七月十三日より實施せらるゝに對し四倉警察署管內の各町村長並に各自衛團長、防空主任、監視哨、長家庭防空群長等の打合せ會を來る七月五日午後一時より小學校內に開く

歸還勇士感謝會

市では來月一日午前八時から縣社子鍬倉神社に歸還勇士の感謝會を開く

梅干講習會

四倉町役場主催にて來る七月二日午後三時より梅干講習會を役場議事堂內に開催する

平第一校に五百圓寄附

本社長佐藤作平氏は二十九日母校平第一小學校へ備品費として五百圓を寄附した

美しき爭

帝都の各館に於て大好評を博した格子なき牢獄の姉妹篇である「美しき爭」はいよ／＼來る四日より平市聚樂館にて上演される

內科・小兒科
菅波醫院
菅波茂
入院隨時
四倉町本町
電話六十三番

市吏員や先生にボーナス七千圓

平市役所吏員や小學校並に商業青年學校教職員に對する臨時賞與は縣の通牒に基き既定豫算の範圍內で左記大体俸給半月分程度で合計七千九百圓のお膳立が整ひ近く一齊にバラ撒かれる。

市役所二、七五〇圓、商業學校一、〇四〇圓、青年學校一一〇圓、小學校三、〇〇〇圓

右は年末賞與を割いた繰上げ支給のわけだが、年末分は更に財政の運賞よろしく支給されるものと見られる

數日は續く
陰うつな梅雨模様

二十六日から降り出した雨以來とう／＼ぐづつき出した空模樣はけふも灰色に塗りつぶされてしめつぽい室內の空氣に梅雨氣分を漂はせてゐる。曆面より遲い地方の梅雨はさんざんお百姓さん達の氣を揉ませた揚句今年も今月末に至つてやつと訪れたわけだが、いつまで續く？この空模樣、測候所では

高氣壓は小笠原方面とオホツク海南部にあり、黃海にも局部的小氣壓は中部以西に發達著るしい氣壓の谷が出來たゝめ內地一帶は梅雨狀態となつたもので、地方もこゝ數日陰露冷涼、時に小雨といふ天氣が續くだらう

と云つてゐる、あすもまた北東の風强、時々雨との觀測だ。

國道改修

平市を中心とする勿來、久の濱間の國道改良は昨年以來單年度事業として先づ平市長橋町に接續してゐる內郷村御厩から炭都綴まで三千五十米を工費二十萬圓で施行、既に御厩地內の新設通路五百米を加へて千六百五十米を完成、引續き綴方部千四百米を工事中であるが、同國道の改修は兩側の民家を移轉させて幅員も十米に擴張された外舊道路面より二尺乃至三尺高く土盛りされたので平、綴間の交通は一層緩和され時局產業開發に非常な貢獻をなしてゐる。なほ平市長橋町と內郷村小島を繫ぐ尼子橋の改修は新川改修の完成後明年度に於て大體十四五萬圓の工費で着工される模樣である

陣中だより
野川國太郎

先日は內地のお便り有がとうございました。お便りによれば皆樣もお元氣にてお暮しの事お喜び申上ます。又小生もお蔭樣にて益々元氣で日夜軍務に精勵いたして居ります故他事乍御安心下さい。小生も祖國をはなれ遠く大陸の戰線へ來て早や半歲になりました小生も天皇陛下の赤子として戰場を赤い血潮で染る覺悟で居ります。

武夫君もぢきに第一線に行くでせう、其の時は小生も武夫君にまけずに一生懸命に御奉公いたします。野戰に居る我々には內地のニュースが樂しみです。便りがくると戰友たちわ手をたゝいて喜んで、おゝい、おれは兄からきたとかおれのは親父からきたとか、おれのは妹からきたなど〻言つてはしやいて居ります、戰地でなければ味わいないです戰友たちも大陸やけしてかほが眞黑になつて居ります。

〇〇城壁には日章旗がひるがいつて居ります、其の城壁の下にクリークのそばにお友軍の戰死者の墓が有ります。だれが上げるのか無名の花が上げて有ります。

陣中のニュースを送ります、第二報迄。

大陸の戰線より皆々樣の御健康をお祈りします。

精動通信
七月一日の興亞奉公日に回想す
元冠役と日本精神

生ける義膽、祖神の靈動、これ等の化合現象が神國の眞の姿であり、茲いて神風となり、神雨となり、神火となる擧國一致の熱彈、上下一体の至誠に生命化された日本精神に超科學的の奇蹟と神風が吹く。偶然を起すものは神明である。

神武天皇御東征の際には、金鵄の瑞あり、神劍の降下あり日本武尊東夷征伐には神火逆風によつて賊を平らげ、神功皇后三韓征討には干珠滿珠の奇瑞あり、新田義貞の由井ケ濱に於ける奇蹟、後村上天皇賀生行幸の暗夜神火あり、支那では一婦寃に死して東海三年旱すといひ、米國では一山村にて無この若者を私刑に處して全村二百戶を燒いたと傳ふ、私人の一念すら尙ほ斯くの如し、國家の大事、國民總意の義憤凝つて神火となり神風となる、元寇役の神風は將に起るべくして當然に起つたものといふの他ない。

後宇多天皇弘安四年閏七月朔日一瞬の間に猛烈なる神風が起つて、九州博多の沖に在りし元の戰艦三千余隻と十三萬の大軍が悉く海底の藻屑と葬り去られた、これが元寇の役である。

元寇役は日本にとつて始めてであり、又最終でもある唯だ一の外患であつた、國民は物心共に總動員を全うした、恐れ多くも龜山上皇は捨身の御祈願を籠めさせ給ひ、皇上の御祈念は申すも畏く、神社佛閣の祈願は三七日晝夜を分たず嚴修された。

風は東北より起り、全國三千神社の神扉一時に颯と開く間か一時間余の神風に十萬の軍兵を沈めて殘るはたゞ三人風止めば玄海灘の曉月淸く金波僅かに動くのみであつた、颱風期ではあつたが颱風は東北より來たらず、必ず西南より吹く、殊に颱風は一定の速力と風向あり、神風は方位風速に囚はれず、故に神風國難を攘ふと傳へらる。今次聖戰下一に心すべきは擧國一致、協力一心である。國民精神の緊張せずして神風を待望すべからず、深く戒心すべきである。

文部省習字科檢定委員
國定書方手本筆者
鈴木翠軒先生御選定
愛國筆
清樂筆
一本金拾錢より金五圓迄
特約店
（文）魁文堂
電話313

一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科
平市田町（電五〇九）
院長 中野惠次

國家細胞としての隣組制度の今昔

湛增庸一

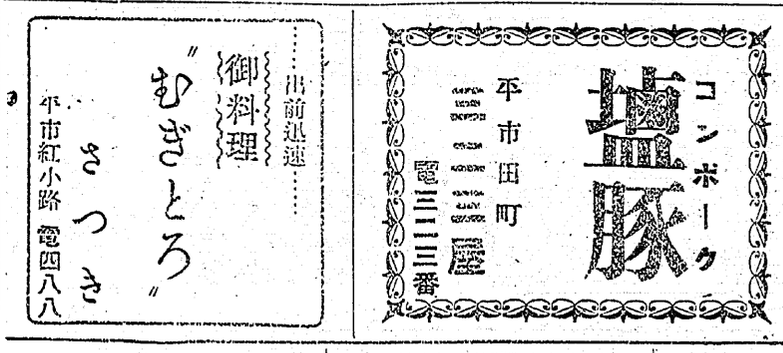
支那事變が勃發して以來、全國的に隣組、若しくは部落會の整備が、國内の大勢として捲起された。國内態勢の上から云へば劃期的な情勢である。此の隣組の整備の如何とは一言にして申せば、日本の目標とする興亞大業の完遂の爲めの基本的な問題である。

明治の維新以來、海外の文明が輸入され、その爲め日本の淳風美俗が破壞されたものも少くないが、中んづく隣保共助の形が遺憾な狀態になつたことは殘念である。我が國では昔から俗に『遠い親戚よりも近い他人』と云ふ言葉があり、或ひは『向ふ三軒兩隣り』と云ふ言葉もあつて相互に屋敷を接して居る者が吉凶ともに相扶け、互ひに力になり合つて御奉公の道を歩み行く事は、日本古來の淳風であつた。それの制度化されたものが五人組、若しくは十人組制度であつた。更にそれが町内と云ふ言葉で統一されて不文律ながら町内の申合せ、町内の決まりを互ひに守り合ひ、之に依つての團結が出來てゐたのである。

然るに自由自義的な營利本位の思想が浸潤して、自分獨りの利益を追求する思想が益々濃厚となり、近隣相扶ける思想が失はれて行つたことは遺憾に堪へぬ。殊に東京市は往年の大震火災の爲めに町内が殆んど灰燼に歸し、町内住民が散り々々バラバラになつて、郊外に雜然混然と擴がつて行つてからは一層昔の江戸時代にあつた町内の美風が其の影を潜めるに至つたのは惜しい事と思ふ。

昔は簡單な法制の下にも隣組即ち五人組十人組、若しくは町内の掟が嚴然としてゐたので、都市の住民は各その決りの下に自肅自誡しつゝ生活してゐたから法制的には幼稚であつたにも拘はらず整然たる市民生活が行はれてゐたが、隣保の美風が地を拂ふてからは、法制は微に入り細に亘つて整調され、處罰の途までも整ふたけれども、ただ法制に依つて社會が圓滿に發達するものでない事は現狀を見ても明かに知ることが出來ると思ふ。

斯かる狀態にては國民が眞に一體となり御奉公を申上しげる上に遺憾の點がある。殊に今次事變の如き我が國未曾有の國難に際會しては益々それを痛感するのである。そこで市當局が隣組整備に依り古への美俗を復活強化させようと努力して居られることは誠に時宜を得たものである。



出前迅速……
御料理
"むぎとろ"
さつき
平市紅小路　電四八八

コンボーク
塩豚
平市田町
三二三屋
電三二三番

銃後の時家計費引下に
一日のサービスデーを
十五日の時利用下さい
ミナサマノミセ
平マーケット
電七〇

募集
永續者には將來の保證を致します

ボーイさん	◆堅實な營業方針の　サロンのお客様は當地一流の方々です ◆色々な方に接することが　社交儀禮の實際に學び　成功の糸口ともなります
調理見習婦人	◆定評ある　サロンの調理法を御傳授いたします ◆見習ひとして調理場に御勤務出來る御婦人に限る

◆14歳以上30歳迄の健康な方
◆3年以上勤續出來る方
◆親權者若くは本人御來談下さい
平市銀座街
電話592
サロン

安田生命保險
日本共立火災
東京動産火災
平代理店　井上貞治郎
平市五町目　電話六六番

これは便利！
☆手を荒さず
☆絹、毛織物、木綿、スフの生地を傷めず
☆つけておくだけで洗へる
美
マルミ粉末石鹸
製造元　平市材木町一一

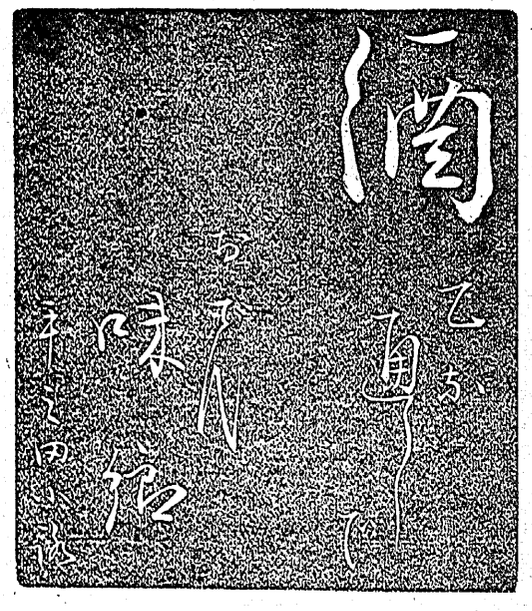
初夏は丹後澤へ
年々御贔負に預り難有御禮申上升、本年は非常時下体位向上の爲格別の勉強を以て御待して居りますから是非一日の御清遊を……
丹後澤舟遊會
生花商　花友
平市　電話六九五番

氷の御用は
電話二一三番
一魚問屋へ
鰹節製造販賣
（日本生命平代理店）
平市四丁目
志賀盛榮商店

女販賣員を募る
◆採用員　五名
◆年齢　十八歳ヨリ二十歳マデ
◎詳細ハ平職業紹介所ニ問ヒ合セ下サイ
平市
三井呉服店
電話三八二八四番

『旨い』と一言（ひとこと）にして盡く
神戸牛
すき燒
相始め申候
日本料理　山茶（つばき）莊
電話五二〇番

貸家廣告
○平市胡摩澤元タマルヤ跡
一、壹軒建拾壹間
一、八疊三間、六疊八間
病院又は旅館向外二三十坪位の庭園あり
御希望の方は田町石川亭に御來談下さい
平市田町【電話四三番】
石川亭

銃後の護りは先づ健康から
如何にして難病を征服すべきか
工學博士藤山常一先生發明
世界七ヶ國專賣特許
磁氣放射　マグネタイザー
適應症　高血壓、中風、神經痛、ロイマチス、胃腸病、痔、肋膜炎、婦人病、小兒痲痺、蓄膿症、喘息其他
種々の療法を試みても捗々しくない御方はスグ一度御試驗して下さい。從來の電氣の如くビリ〳〵する不快な感じは絶對になく、お召物の上から誠に氣持よく、しかも大衆向料金で叮寧に治療致します。
午前八時より午後九時まで
（毎月第一日曜休業）
平市二丁目三十一番地
（元專賣局跡）
最低の料金
最高の効果
主義　平磁惠院

一滴